

「農産物・食品輸出対策研究会」活動報告 (リーダー宇野一雄)

＜研究会の目的＞

食料の輸出に関しては、国も地方も注力分野として取り上げてきており、当 NPO クラブとして、この分野における支援活動を展開するため、まずは研究会を立ち上げることとしました。

＜活動実績＞

1. 関係先ヒアリングについて

(1) JALUX

2019年7月16日実施。

①佐賀県アスパラガスを、タイの JALUX トンロー市場で取り扱うことを提案

②以下のことが判明

- ・バンコクはアスパラの産地で、一般的に言えば、特徴がないと難しい。(ベルギーからホワイトアスパラが輸入されている)
- ・果物は売りやすいが、野菜は難しい。ブランド品は、高くても売れる。
- ・国内運賃がコスト高要因になる。(国際運賃は比較的安い)単品では、価格が合わない。
- ・海外輸出のためには、行政として県単位で考えないと難しい。

③自治体へのアプローチに際し、トンロー市場の情報提供をツールとして使う。

(2) 日本食品輸出フォーラム

2019年7月18日、小関会員が出席し、情報収集を行った。

- ・農水省:2018年8月に、農林水産物・食品輸出プロジェクト(GFP)を立ち上げ、輸出に関する情報提供、グローバル産地づくり推進、JETRO との連携によるマッチング活動を実施している。
 - ・JETRO:GFP の一翼として、ハラル認証などの特定分野の専門家支援、個別企業・地域支援を実施。
 - ・日本能率協会:FOODEX JAPAN 事務局として、海外来場者の調査を実施。
- 今後、GFP に登録し、農水省、JETRO との協業を検討する。

2. 対外PR活動

ベトナム、タイ、台湾への輸出について、支援できることをアピール。(研究会メンバーの人脈の活用)

(1) 対みやぎ産業振興機構

2019年7月18日実施。

- ① アグリビジネス支援室:専門家派遣によるアドバイス、現場リーダー養成、展示商談会出展支援などの面で、NPOクラブとしてお手伝いが可能であるとアピール。
- ② 水産加工業ビジネス支援室:販路開拓などの専門家派遣、生産性改善支援が可能であるとアピール。

(2) 対佐賀県

2019年8月20日、佐賀県産業労働部および佐賀県地域産業支援センターと面談。

佐賀県には、「佐賀牛」や「佐賀米」があるが、すべてJAが全農グループ経由で輸出していて、県としては関与していない。当面、県は産業支援センターに輸出機能を持たせる方針という。

(3) 対関東経産局産業部

①関東経産局へのPR:2019/10/3 経産局訪問

相手方:産業部国際課／瀧澤課長、遠矢課長補佐、北村係長

面談内容

- ・農産物だけでなく、加工食品や酒類なども輸出実績を作りたい。
- ・商社だけでなく、専門家のネットワークを広げたい。
- ・ベトナムでの展示販売会の機会を模索中。NPOクラブとのコラボに関心あり。

②遠矢課長補佐・北村係長来所:2019/10/21

- ・10/3 の面談を受けて、来年度事業の相談のため来所。
- ・ドラッグストアでの販売(KURIMOTO 氏、松田会員紹介)、ミントランガーデンでの販売(ユン氏、小関会員紹介)を提案。
- ・KURIMOTO 氏、ユン氏を引き合わせることにした。

③KURIMOTO 氏引合せ:2019/11/1 於:神田

遠矢課補、北村係長、岸/関東農政局経営・事業支援部地域連携課行政事務研修員
以下3点を確認した。

- ・現地関係者の引合せは可能
- ・店舗の棚を5つ提供できる
- ・ベトナム現地視察に際しては、可能な限りの協力を行う

④ユン氏引合せ:2019/11/7

2020年1月に、遠矢課補、北村係長がベトナム視察を行う際、ユン氏がミントランガーデンを案内することとなった。

⑤日本の食品輸出 EXPO 会場での打合せ:2019/11/27 於:幕張メッセ

遠矢課補、北村係長のベトナム視察について、KURIMOTO 氏・ユン氏と直接調整するよう段取りを整えた。

(注)現時点では、ベトナム展示会の予算化はできていないとのこと。

3. 支援実績

2019年12月、南東北中央会展示会において、山形県中小企業団体中央会の丸善食品工業㈱が「ラーメンのスープ」の輸出を希望した。当NPOクラブ会員の実弟がネパールで日本食店を経営し、ラーメンの取り扱いを希望していることから、1月社長の帰国時に、NPOクラブ事務所でマッチングを行なった。

豚骨スープ3種類、濃縮ダシスープ5種類、各1本、計8本の購入が決まった。

今後の展開が期待できます。